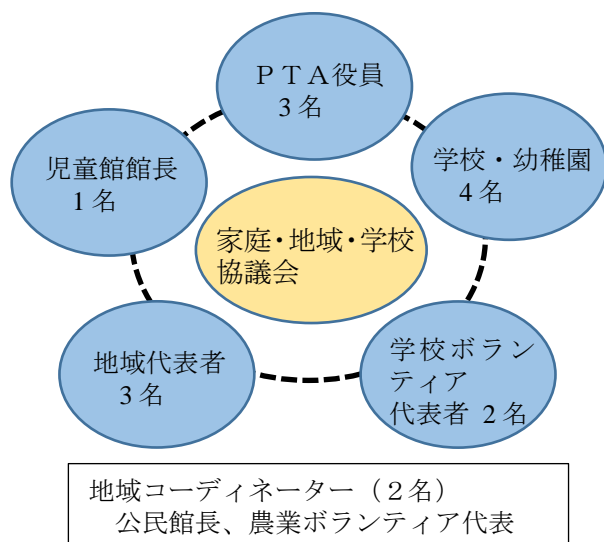


1 「家庭・地域・学校協議会」の設置と運営

(1)家庭・地域・学校協議会の構成



(2)協議会の開催計画

①開催予定数 2回

②開催日程 9月20日(金)、2月6日(木)
 オープンスクールや学校行事のある日、また指導主事訪問日にはその都度来校していただき、年間を通して学校への意見をいただくようにする。

③協議内容

- ・スクールプランについて
- ・学力向上、体力向上、情報教育の取り組みについて
- ・安全・安心な学校づくりについて
- ・地域と連携した「ふるさと教育」を深めるための手立てについて(「まちづくりプロジェクト」等)
- ・地域活動における児童の取り組みについて
- ・学校評価について
- ・保・幼・小・中の連携について

(3)協議会における成果と課題

- ①公民館や地域団体と協力し、地域の歴史や文化を学び、発信する教育活動・ふるさと教育の推進
- ②地域・保護者と連携した環境教育の推進
- ③地域・保護者と連携を図った食育の推進
- ④保護者と連携した情報教育の推進

2 地域と進める体験活動

(1)活動のねらい

地域の教育力を活かしながら、歴史と伝統を受け継ぎ地域を誇ることができる児童の育成

(2)活動の実際



①「アジサイ1万本計画に参加」

北中山地区で、まちづくりの一環として展開されているアジサイ1万本植栽運動に参加した。地域の一員としてふるさとを愛するとともに、誇りを感じることができた。



⑥「ありがとう集会」

1年間お世話になった学校ボランティア(学校給食炊、読み語り、登下校の見守り隊等)を招き、併設の幼稚園の園児と共に、合唱・合奏を披露したり、一緒に踊ったりして、日頃の感謝の気持ちを届けた。



⑤「北中山語り部の会」

北中山ふるさと委員会の一つである「北中山語り部の会」の方に、北中山地区の各町内の言い伝えなどを話していただいている。本年度は3年生が実施し、児童には、地域への誇りと感謝の心が育っている。

(3) 地域コーディネーターの活動概要



②「読み語りボランティア」

毎週1回、10数名の地域ボランティアによる、「読み語り」を行っている。毎回全クラスで行なわれ、児童の本への興味・関心を高め、読書への意欲の向上につながっている。



③「学校給食畑ボランティア」

学校給食畑で約20名の方の協力を得ることができた。春から冬まで1年を通して季節の多彩な野菜の収穫があり、学校給食に利用し、児童は感謝の心で給食をいただいている。



④「川島ごぼう掘り体験」

地域の伝統野菜である川島ごぼうの収穫を体験した。地区の川島ごぼう研究会の皆さんの協力を得て行った。伝統野菜を守り続ける苦勞について学ぶことができた。また、収穫したごぼうは、学校給食でいただいた。

(4) 特に工夫した点

- ・学校だよりやHPによる情報発信、公民館と連携した学校だよりの地域への配布
- ・学校給食畑や語り部など地域の人材を生かした学習活動と情報の発信
- ・地区の「まちづくり委員会」と連携したふるさと体験事業への企画・立案・参加
- ・学校ボランティアや地域の方を招いて交流し、絆を深める「ありがとう集会」の開催（10月）
- ・PTAと連携した保護者学級の開催（10月）
- ・食育推進のための、地域団体との協力や保護者への呼びかけ
- ・公民館と連携した夏祭り・文化祭など地域行事への子どもたちの積極的参加

(5) 成果と課題

ア ふるさと学習を重点的に取り組み始めて7年が過ぎた。これまでの継続的な取り組みによって、児童たちに地域への関心、愛着の心が確実に育まれたと感じている。児童たちが進んで始めた町づくりの活動は、主体的に課題解決の学習を進める絶好の機会となった。また、地域の方と共に活動することで、児童の自己肯定感も高まっている。

イ 保護者や地域の方がふるさと学習の成果を喜んでくださっている。（保護者アンケート ふるさと学習に満足 2学期90%）児童たちが幼い頃から地域に誇りを持ち、活動をしていることで、若い保護者の方も地域の町づくりに目が向いている。

ウ 地域のまちづくりに学校や児童が参画したことで、地域のまちづくり委員会の活動も、より一層活発になっている。

無理なくふるさと教育を進めるための方策や連携のあり方を念頭におきながら、児童への働きかけを行った。今後も、新たに何かを付け加えるのではなく、今までしてきたことを見直しつつ、また学校の教育課程と結びつけることを重視しながら、全教職員でこの教育を推進していく。また、教員の負担も鑑みながら、教員が子どもと接する時間を確保して質の高い教育を継続して一丸となって取り組めるよう、保護者や地域の理解を求めていきたい。